



MEGASTAR (スーパープラネタリウム) -138億光年の彼方へ-

世界で初めて、天の川を一粒一粒の星の集まりとして正確に表現した移動型光学式プラネタリウムシリーズ「MEGASTAR(スーパープラネタリウム)」。プラネタリウム・クリエイター、大平貴之氏の個人開発によって生み出されたこの「MEGASTAR」シリーズの中でも、2200万個もの恒星を映し出すことができる「SUPER MEGASTAR-II」が、「海と宙の未来」展との同時開催イベントとして大分に初上陸しました。会場となった3階展示室Bで、大平氏のナレーションに合わせて30秒目を閉じ、目を開くと、そこには無数の星空が、1等星から13等星までの恒星や星雲、星団、銀河など、肉眼では見分けることができない微細な星が忠実に再現されており、荘厳な星空や美しいオーロラを、イスや床のクッションに座ったり、寝そべて見上げていると、まるで本物の星空の下にいるような錯覚に陥ります。最先端スペースエンジン(宇宙シミュレーションソフト)によって138億光年離れた宇宙の果てまで旅しながら、宇宙の神秘や広大さを知ることができました。開幕からわずか18日で入場者数が1万人を突破し、最終的には3万人を突破するなど、予想をはるかに上回るほど注目を集めました。



おおいた美術散歩 OPAM & 豊の国

大分県内を5つのブロックに分けてそれぞれの特徴を表すテーマを設け、様々な芸術文化の取り組みが行われた国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭。この企画展でも各ブロックの特色ある美術資料を紹介し、日本を代表する県出身作家らによる絵画や彫刻、工芸などの名品42点を展示しました。県の購入が決定した大分市出身の福田平八郎の代表作《新雪》や、同市出身の高山辰雄が春日浦で過ごした思い出の風景を描いた《遙かな濱邊》などの日本画から、作者不詳の県指定文化財《天福寺木造菩薩立像》や《鏝絵 鯛廻し恵比寿》、《小鹿田古作品 醤油捨口》などの工芸作品まで、「おおいたの美術」の多様さと層の厚さに来場者は見入っていました。



有人潜水調査船しんかい6500、 支援母船よこすか見学会

国立研究開発法人海洋研究開発機構(JAMSTEC)の有人潜水調査船「しんかい6500」を搭載した支援母船「よこすか」が別府国際観光港に寄港し、見学会を開催しました。10月12日は入港式典とともに、別府市内の高校生・小学生の特別観覧等を行い、13・14日は友の会会員と一般向けに見学会を行いました。「しんかい6500」の現役パイロットやよこすか乗組員の方々から機体や深海に関する解説を受けながら見学する貴重な機会となりました。当日はOPAMやうみたまご、別府公園をシャトルバスで結ぶなどし、3日間合計で6,500名を超える来場があり、大変賑わいました。